学校番号	3001

令和２年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	改訂版　新　高校の数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	教科書学習ノート　数学Ⅰ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解しましょう。
・学習の基本は授業です。常に真剣な気持ちで取り組みましょう。授業では、はじめに新しい基本事項（法則，定理，公式）を理論的に導き（証明）、そのあとでそれを利用するための練習問題を解きます。その際に、生徒間で質問や説明および議論を行い、生徒同士で学び合う時間を授業の中に取り入れています。
・授業内容を理解しやすいように、毎時間授業プリントを用意しています。板書だけでなく、自分の考えや周りの人の考えも積極的に記録しましょう。
・問題集は定期考査ごとに提出してもらいます。提出期限は守りましょう。

2　学習の到達目標

三角比、集合と論証、およびデータの分析の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学的活動を通して，三角比、集合と論証、およびデータの分析の考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、三角比、集合と論証、およびデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付けている。	三角比、集合と論証、およびデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	三角比、集合と論証、およびデータの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習活動への取り組み 課題・提出物の状況 プリント 小テスト 観察等	小テスト 定期考査 プリント 観察等	小テスト 定期考査 プリント 観察等	小テスト 定期考査 プリント 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	三角比	鋭角の三角比	○	○	○	○	a:三角比に関心をもち、直角三角形の計量にもちいようとする。また、三角比の相互関係に関心をもち、図や表を用いて調べようとする。 正弦定理・余弦定理などが図形の計量の考察に有用であることに気付き、活用しようとする。 b:図形の相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係でとらえることができ、三角比の相互関係について考察することができる。 c:直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。 三角比の相互関係を利用して、１つの値から残りの値が求められる。また、90°までの三角比の表を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。 d:正弦、余弦および正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身に付けている。鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。	小テスト 定期考査 プリント 観察等
		三角比の利用	○	○		○		
		三角比の相互関係			○			
		鈍角の三角比		○	○	○		
		正弦定理・余弦定理	○	○	○			
2学期	集合と論証	集合		○		○	a:　必要条件や十分条件、及びそれらの使い方を日常生活の中に見出し、利用しようとする。 b:　条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。また、命題の真偽を、集	小テスト 定期考査 プリント 観察等

		命題と集合		○	○	○	合の包含関係に結びつけてとらえることができる。 c:命題を表す記号を理解し、命題の真偽を考察することができる。また、対偶の定義を理解し、命題の対偶を作ることができる。また、対偶の真偽はもとの命題の真偽と一致することを理解している。 d:共通部分、和集合、空集合、部分集合、全体集合、補集合について理解している。また、否定の意味及び否定を表す記号や、十分条件、必要条件および必要十分条件の定義を理解している。	
		必要条件と十分条件	○		○	○		
3学期	データの分析	データの整理			○	○	a:身近なテーマを取り上げ、目的に応じてデータを分析し、傾向をとらえるなど、統計の考えに関心を持ち、それを活用しようとする。また、度数分布表やヒストグラムなど、統計の考えに関心を持ち、代表値などを用いて資料の傾向をとらえようとする。 b:目的に応じてデータを整理し、それを分析する活動などを通して、資料の傾向をとらえることができる。また、目的に応じて資料を分析するための必要な方法について考察することができる。そして、資料の傾向を考察し、代表値などを用いて資料の傾向をとらえることができる。 c:目的に応じて資料を収集・整理し、それを表やグラフなどを用いて分析して、結果を数学的に表現することができる。 資料を分析し、度数分布表やヒ	小テスト 定期考査 プリント 観察等
		データの代表値	○		○			
		データの散らばり		○	○	○		

		データの相関		○	○	○	ストグラムなどで表現し、代表値などを求め、資料の傾向を把握し、表現することができる。 d:資料を分析するための表やグラフを理解し、データの傾向をとらえるための代表値や度数分布表、ヒストグラムなどの意味などを理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方

c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。